

投資事業評価調書（継続）

部課室名	道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路保全課長 竹谷 徹 (藤田 宜久)	内線	4389 (4399)
------	-------	---------------------	------------------------	----	----------------

事業種目	自転車道 整備事業	事業名		事業区間		総事業費	約27.7億円
		(一) 播磨中央自転車道		滝野町下滝野～ 加古川市平荘町		内用地補償費	約8.1億円
所在地		事業採択 年度	着工年度	完成予定 年度	進捗率 (内用補進捗率)	約68% (約77%)	
滝野町下滝野～加古川市平荘町		H7	H7	H24	残事業費	約8.9億円	
事業の目的				事業内容			
<p>自転車交通の安全を確保するとともに、自転車の利用による県民の心身の健全なる発達に資する。</p> <p>また、レクリエーション施設及び名所旧跡等が集積する播磨地域を一体的かつ有機的に連結して既設の加古川右岸自転車道線と接続し、加古川流域を中心とした自転車道ネットワークを形成することにより、観光レクリエーションの振興に寄与する。</p>				<p>全体延長：L=22.5 km 期工区 L=13.6km (権現ダム～いこいの村はりま) 幅員：W=3.0m(4.0m) 期工区 L= 8.9km (いこいの村はりま～県立播磨中央公園) 幅員：W=2.0(2.5)～3.0(3.5)m 計画¹の交通量：約2,000台/日(ファミリー～網引駅間)</p>			
進捗状況		<ul style="list-style-type: none"> 期工区については平成16年度の供用を目指して整備を進めてきた。工区内2箇所用地買収が難航しているが、平成17年度中の用地取得を図り、事業完了は平成19年度となる見込みである。 平成16年度にPI手法を用いたふるさと交流委員会を開催し、さらなる広範な普及啓発について有識者や地域住民等の意見を反映した検討を行っている。 期工区は整備ルートの検討を進めている。 					
評価視点		評価結果の説明					
(1)必要性 地域の活性化 快適性・ゆとり 安全・安心		<ul style="list-style-type: none"> 播磨中央自転車道が加古川右岸自転車道と連結されれば、高砂海浜公園から平荘・権現ダムを経由して加西フラワーセンター、いこいの村はりま、播磨中央公園に至る加古川流域の自転車道ネットワークが形成され、観光レクリエーションの振興に寄与するとともに、周辺地域の交流が促進され、地域の活性化につながる。 県民や観光客が自転車を利用することで心身の健全なる発達に資する。 					
(2)有効性・効率性 有効性 効率性		<ul style="list-style-type: none"> 期工区を完成させることでいこいの村はりま、北条町駅及び少年自然の家等のレンタサイクル拠点(約160台)が連結し、いこいの村はりままでの観光・レジャー施設の利用促進の効果が期待される。 加古川右岸自転車道は平荘・権現ダム周辺散策や小学校の課外授業サイクリング及び加古川ソーデーマーチ等のイベントで利用されており、播磨中央自転車道が連結することにより加西市等で行われるイベントにも自転車道の有効利用が見込まれる。 播磨中央自転車道周辺の主要施設の利用客数は年間約83万人(H14年度)であり、加古川右岸自転車道は平日317(台/日)、休日549(台/日)、ピーク1,679(台/日)の利用実績もあることから、自転車道が連結すれば自転車の利用が見込まれる。 また、期工区は期工区に引き続き整備に着手することで青野運動公園、播磨中央公園までの観光・レジャー施設が自転車道で連結され、利用促進が図れる。 					
(3)環境適合性		透水性舗装の採用により、雨水の地中への還元が図れる。					
(4)優先性		期工区については一部未整備であるが、早急に路線の連続性を確保して加古川右岸自転車道と連結し、事業効果を早期に発現して利用促進を図るため引き続き整備を進める必要がある。期工区は期工区の完成後、整備に着手する。					
再評価 の結果	継続	左の 理由	上記の理由により事業継続が妥当である。				